

安曇野市下水道事業経営戦略

計画期間：平成29年度～令和9年度

令和5年度 事業評価報告書

令和6年9月

安曇野市 上下水道部

安曇野市下水道事業経営戦略の基本目標と基本方針について

基本方針

下水道事業は、常に企業の経済性を発揮するとともに、公共の福祉を増進するように運営されなければならないとされています。

安曇野市総合計画では、「安全・安心で快適なまち」を基本目標に、「住みやすさを感じるまち」を基本方針とし、良質な水道水の安定供給と水洗化による快適な生活環境を維持するとともに、健全かつ効率的な事業経営を目指すとした「安定した水道・下水道事業の運営」を基本施策としています。

これらを踏まえ、安曇野の豊かな自然環境と清潔な生活環境を未来に引き継ぐため、以下の3点を基本方針として、事業を運営していきます。

○豊かな自然環境を守る

「良好な水環境」を維持するための施策を展開します。

○安全で安心な暮らしの実現

「事業継続、防災・減災」を推進するための施策を展開します。

○健全で持続可能な事業運営

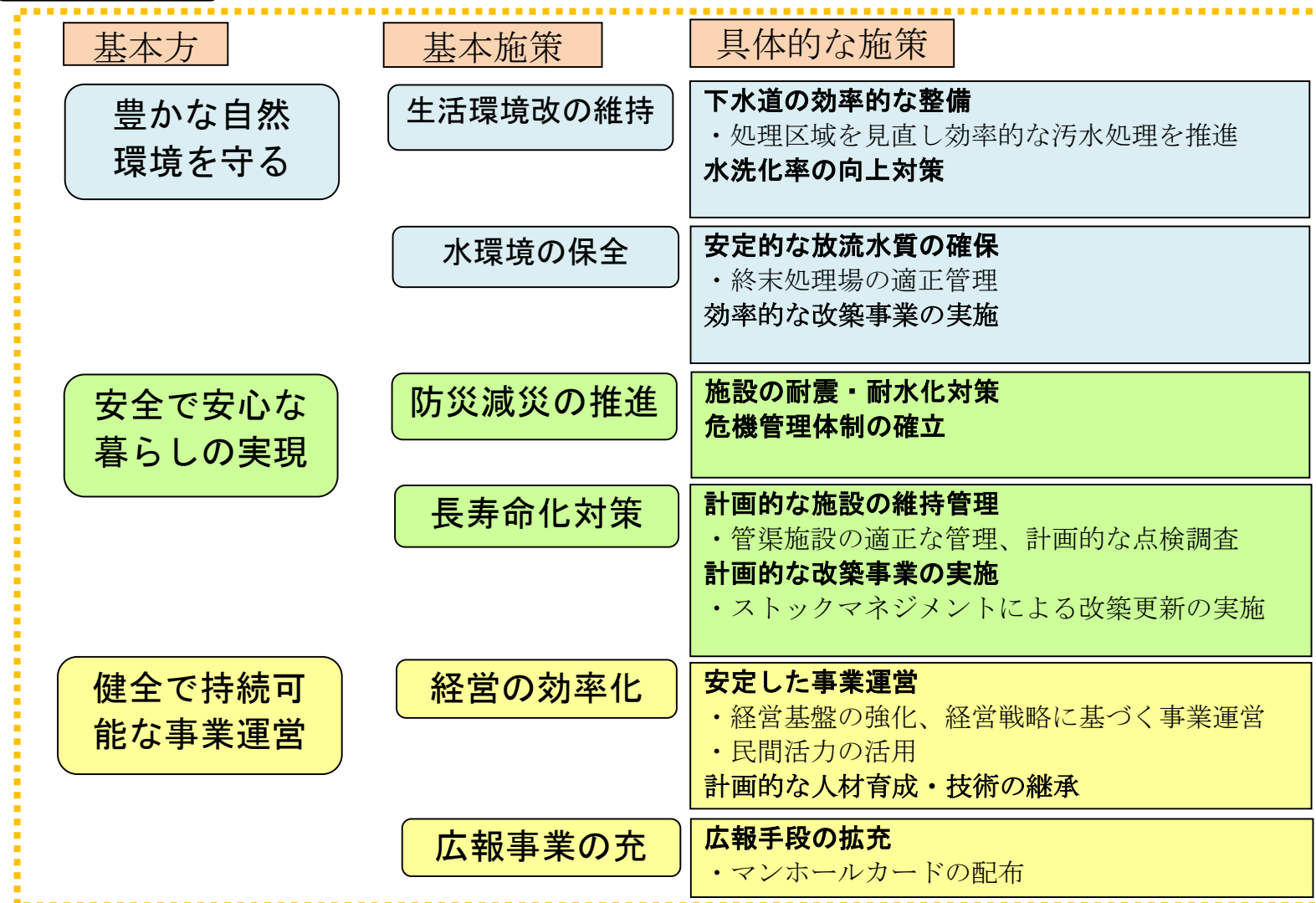
「市民に理解・信頼される強固な経営基盤」を構築するための施策を展開します。

安曇野市下水道事業経営戦略の施策体系について

基本理念

安曇野の豊かな自然と清潔な生活環境を未来に引き継ぐために

施策体系図



令和5年度の下水道事業経営戦略進捗状況を
点検・評価しました。

□点検評価基準

以下の基準により、点検・評価を行いました。

達成率		評価基準	
95%以上	A	目標どおり	評価
95%未満 85%以上	B	目標をやや下回る	
85%未満	C	目標を下回る	

例：令和4年度末の「水洗化率」
 ・令和4年度末の87.1%が最終目標値
 ・令和4年度末の実績率は88.0%
 ・ $88.0\% \div 87.1\% \times 100 \approx 100\%$

定量的な評価が難しい項目について
 達成率について、定量的な評価が難しい項目は下記一覧表で「空欄（目標値備考欄：定量困難）」となっていますが、以下の要領で評価します。
 「具体的に〇〇に取り組んだ。」「予定していた事業を完了し、予定どおりの成果が出ている。」場合は「A」
 「〇〇を検討している。」「取組を開始している。」場合は「B」
 「未着手」の場合は「C」。

(単位：%)

実現方策			年次目標値②（下水道事業経営戦略具体的な取組み）										目標値備考	策定時数値 a	中間目標値 b	最終目標値 c		
			1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目					11年目	
35件			H29度	H30度	R元度	R2度	R3度	R4度	R5度	R6度	R7度	R8度	R9度					
豊かな自然環境を維持	生活環境の維持	1 下水道施設整備	89.3	90.1	90.9	91.7	91.8	91.8	91.9	91.9	92.0	92.0	92.1	普及率	89.3	91.7	92.1	
		2 下水道施設整備区域見直し、事業計画変更	89.3	90.1	90.9	91.7	91.8	91.8	91.9	91.9	92.0	92.0	92.1	普及率	89.3	91.7	92.1	
		3 接続管渠整備	-	-	-	-	-	6.5	27.7	61.5	86.5	93.3	100.0	進捗率	-	-	100	
		4 広報誌・HP等による接続啓発	81.0	82.8	84.5	86.3	86.7	87.1	87.6	88.1	88.5	89.0	89.4	水洗化率	81.0	86.3	89.4	
		5 DM・戸別訪問による接続依頼	81.0	82.8	84.5	86.3	86.7	87.1	87.6	88.1	88.5	89.0	89.4	水洗化率	81.0	86.3	89.4	
		6 新たな助成制度の創設	81.0	82.8	84.5	86.3	86.7	87.1	87.6	88.1	88.5	89.0	89.4	水洗化率	81.0	86.3	89.4	
	水環境の保全	1 終末処理場の適正管理（委託料）													定量困難			
2 処理場設備の計画修繕（委託料）														定量困難				
3 流域下水道建設負担金														定量困難				
4 流域下水道維持管理負担金														定量困難				
5 事業場への立入検査														定量困難				
6 最適整備構想策定（農集排）														定量困難				
7 処理場機械電気設備の更新（ストックマネジメント）		-	-	-	-	-	-	-	26.3	53.4	78.5	100.0		更新率	-	-	100	
安全で安心な暮らし実現	防災対策	1 明科浄化センター耐震診断												定量困難	-	-	診断実施	
		2 汚水処理場耐水化対策	-	-	-	-	-	-	-	50.0	100.0			実施率	-	-	100	
		3 下水道BCP職員訓練の実施												定量困難	-	-	-	
		4 安全管理対策（マンホール蓋、路面補修など）												事故件数	-	-	0件	
		5 非常用発電機の導入												定量困難	-	-	-	
		6 緊急通報装置の更新（ストックマネジメント）	-	-	-	-	100.0							進捗率	-	-	100	
	長寿命化対策	1 管渠・MPの適正管理（委託料）												定量困難				
		2 管路施設の計画修繕（委託料）												定量困難				
		3 スtockマネジメント計画の策定	-	-	16.9	100.0									進捗率	-	-	策定
		4 法定点検の実施（腐食環境下の管路施設）	100.0					100.0							実施率	-	-	100
健全で業持続可能な事業運営	効率化の推進	5 計画的な施設の点検・調査（1回/10年） （主要管路のカメラ調査 L=15km）	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	10	進捗率	0	40	100	
			1.5k/年	1.5k/年	1.5k/年	1.5k/年	1.5k/年	1.5k/年	1.5k/年	1.5k/年	1.5k/年	1.5k/年	1.5k/年		0	6km	15km	
		6 管渠の清掃（1回/10年） （高圧洗浄 L=11km）	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	10	進捗率	0	40	100	
			1.1k/年	1.1k/年	1.1k/年	1.1k/年	1.1k/年	1.1k/年	1.1k/年	1.1k/年	1.1k/年	1.1k/年	1.1k/年		0	4.4km	11km	
実業広の報充事	7 管渠の改築更新（ストックマネジメント）									100			実施率	-	-	100		
	8 マンホールポンプ場の設備更新（ストックマネジメント）	-	-	-	-	-	18.7	39.2	54.9	62.9	83.8	100	更新率	-	-	100		
							2箇所/年	2箇所/年	2箇所/年	2箇所/年	2箇所/年	1箇所/年		-	-	11箇所		
健全で業持続可能な事業運営	効率化の推進	1 経営戦略に基づく事業運営												定量困難				
		2 民間活力の活用												定量困難				
		3 処理場統廃合の検討（処理区域の見直し）												定量困難				
実業広の報充事	効率化の推進	4 人材育成、専門技術の継承												定量困難				
		5 下水道使用料の検証												定量困難				
		1 市民への使用方法PR（イベント等への参加）	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	イベント参加	-	-	年2回	
実業広の報充事	効率化の推進	2 ホームページ等の充実と強化												定量困難				
		3 マンホールカードの配布事業												定量困難				

安曇野市下水道事業経営戦略の令和5年度施策の点検評価結果

1 令和5年度施策の点検評価結果の概要

具体的な施策34件のうち、事業完了したものや来年度以降の実施施策等8件を除く26件について評価した。
結果はA評価21件、B評価5件となった。
施設の耐震化・耐水化については、現在進めている処理場の統廃合と並行して進めることとした。

2 基本方針別の評価結果と今後の課題・方向性

(1) 豊かな自然環境を守る

- ・下水道普及促進において計画していた下水道整備は平成30年度に概ね完了し、施設の維持管理へと移っている。
現在は効率的な汚水処理に向け、下水道施設統廃合事業を進めている。
- ・水洗化率は年々向上しているが、更なる向上を目指し、各種活動を継続して進める。
- ・終末処理場の適切な運転管理に取り組んだ結果、安定的な放流水質の確保ができています。
今後も特定施設や除外施設への立入検査を継続し、水質保全を図る。

(2) 安全で安心な暮らしの実現

- ・施設の総合一括管理を長野県下水道公社へ委託している。施設は概ね健全であるものの、耐用年数を迎え、老朽化の進んでいる施設もある。
今後は計画的な点検調査、ストックマネジメントを取り入れた改築修繕を進め、施設の長寿命化と維持管理体制の強化を進める。

(3) 健全で持続可能な事業運営

- ・下水道への理解と関心を深めてもらうため、安曇野市環境フェアや下水道ふれあいで～に出展し、アピールに取り組んだ。
- ・研修会等への計画的な参加やOJTによる人材育成・技術承継に取り組み、経営の効率化を図る。

下水道

【計画期間：平成29年度～令和9年度】

基本理念：安曇野の豊かな自然と清潔な生活環境を未来に引き継ぐために

基本方針	具体的施策	具体的な取り組み	最終目標値	R4までの実績率	令和5年度						
					単年度目標	単年度実績	年次目標値	最終目標値に対する実績率①	達成率	評価	コメント欄
豊かな自然環境を守る1/3		1 下水道施設整備 (～H30)			平成30年度完了						
		2 下水道区域見直し、事業計画の変更 (R2～R3)			令和4年度完了						
		3 接続管路整備 (R4～R9)	100.0%	6.2%	令和4年度からの債務負担行為で発注した接続管路実施設計業務と令和4年度から繰越した地質調査業務を行う。また、設計等が完了した箇所から順次工事発注する。	・接続管路実施設計業務（令和5年度までの債務負担行為） 全体契約額 104,335,000円 内訳 R4年度 62,420,000円 R5年度 41,915,000円 ・地質調査業務 全体契約額 6,501,000円 内訳 R4年度 6,380,000円 R5年度 121,000円 ・工事 生野1工区管路工事ほか6件 全体契約額 436,150,000円 ・工事に係る施工監理業務委託 全体契約額 12,597,200円	27.7%	34.0%	123%	A	<p>成果</p> <p>汚水処理区域の広域化、汚水処理の共同化を図るため、処理区統合に向けた工事に着手した。</p> <p>課題</p> <p>燃料価格や人件費、資材単価の高騰による工事費の上昇が見込まれるため、財源の確保が課題となる。</p> <p>今後の方向性</p> <p>明科処理区、生野処理区は令和8年度の供用開始を目指し事業を進める。</p>
		4 広報誌・HP等による啓発 (H29～R9)	89.4%	87.1%	下水道接続促進を図るため、広報誌・ホームページによる啓発を行う。	・「広報あづみの」、安曇野市ホームページにて、下水道の接続啓発を行った。 ・使用済みマンホール蓋10枚を販売するにあたり、41件の応募があった。	87.6%	88.0%	100%	A	<p>成果</p> <p>使用済みマンホール蓋の販売等を行い下水道への関心を持っていただいた。</p> <p>課題</p> <p>水洗化率は徐々に向上しているが、更なる向上が望まれる。</p> <p>今後の方向性</p> <p>今後も水洗化を推進するPRを広報誌、ホームページを通じて行っていく。</p>
		5 DM・戸別訪問による接続依頼 (H29～R9)	89.4%	87.1%	・未接続者への接続要請。	・汲み取り便所利用者への文書による接続要請及びアンケートの実施。 1,925件	87.6%	88.0%	100%	A	<p>成果</p> <p>未接続者のうち、汲み取り便所利用者に接続を要請する文書を送付し、水洗化率向上に取り組んだ。</p> <p>課題</p> <p>水洗化率は徐々に向上しているが、更なる向上が望まれる。</p> <p>今後の方向性</p> <p>今後も継続して、文書による接続要請を行う。</p>
		6 新たな助成制度の創設 (H29～R9)	89.4%	87.1%		他自治体の取り組み関し調査を行い、新たな制度について検討した。	87.6%	88.0%	100%	A	<p>成果</p> <p>水洗化率向上に対する他の自治体の取り組み状況を調査した。</p> <p>課題</p> <p>効果的な取り組みを模索する必要がある。</p> <p>今後の方向性</p> <p>効果的な取り組みを模索する。</p>

下水道

【計画期間：平成29年度～令和9年度】

基本方針	具体的施策	具体的な取り組み	最終目標値	R4までの実績率	令和5年度						
					単年度目標	単年度実績	年次目標値	最終目標値に対する実績率①	達成率	評価	コメント欄
豊かな自然環境を守る2/3	イ 水環境の保全 (安定的な放流水水質の確保) (ストックマネジメントの実施) 1/2	1 終末処理場の適正管理(委託料) (H29～R9)	—	R2年度 58,462千円 R3年度 59,386千円 R4年度 65,794千円	明科浄化センターと農業集落排水4箇所の浄化センターの維持管理を長野県下水道公社へ委託する(R5～R7の3ヶ年契約)	<ul style="list-style-type: none"> 処理場各種機器の運転操作及び監視 点検記録、管理日報及び月報等の作成 各種機器の日常点検、定期点検及び調整 故障等非常通報時の対応 汚泥分析 水質検査等 	定量的な評価が困難な項目	—	—	A	<p>成果</p> <p>終末処理場の適切な管理に取り組み、水環境の保全に寄与した。</p> <p>課題</p> <p>諸物価高騰の折、維持管理費の向上が見込まれるが、公共用水域の水質を保全していく必要がある。</p> <p>今後の方向性</p> <p>処理場を適正に管理するため、一定の知識や経験を備える業者に委託をしていく必要がある。施設の統廃合を段階的に進める中で維持管理コストの削減を図る。</p>
		2 処理場設備の計画修繕(管理委託を含む)	—	—	上記1に含めて実施中						
		3 流域下水道建設負担金 (H29～R9)	—	R2年度 121,970千円 R3年度 70,247千円 R4年度 42,932千円	犀川安曇野流域下水道終末処理場の管理棟・ポンプ棟・沈砂池棟・放流渠の耐水化工事や施設のストックマネジメントなどにかかる建設改良費のうち安曇野市負担分を建設負担金として支出した。	<ul style="list-style-type: none"> 犀川安曇野流域下水道の管理棟・ポンプ棟・沈砂池棟・放流渠の耐水化工事や施設のストックマネジメントなどにかかる建設改良費のうち安曇野市負担分を建設負担金として支出した。 	定量的な評価が困難な項目	—	—	A	<p>成果</p> <p>終末処理場耐水化工事等施設に必要な建設改良に対し、安曇野市分の負担金として支出した。</p> <p>課題</p> <p>計画的に建設改良が進められているが、経年経過による老朽化は避けられないため、今後費用が高騰することが予想される。</p> <p>今後の方向性</p> <p>引き続き、県流域下水道の建設費に係る関係市の負担割合等に関する要綱に基づき、適切に負担する。</p>
		4 流域下水道維持管理負担金 (H29～R9)	—	R2年度 811,664千円 R3年度 811,680千円 R4年度 905,799千円	犀川安曇野流域下水道の終末処理場と幹線管渠の維持管理費として、汚水排除量に応じた維持管理負担金を支出した。	<ul style="list-style-type: none"> 汚水排除量実績 8,096,238m³ 内訳：公共848,754,837円 特環 95,271,447円 	定量的な評価が困難な項目	—	—	A	<p>成果</p> <p>汚水排除量を基に、流域下水道維持管理負担金を年6回支出した。</p> <p>課題</p> <p>諸物価高騰などによる、流域下水道維持管理負担金の単価値上げが予想される。</p> <p>今後の方向性</p> <p>引き続き、流域下水道維持管理負担金を支出し、公共水域の水質保全を図る。</p>
		5 事業所等への立入検査 (H29～R9) (120件/年 特定施設と 除害施設の計)	—	R2年度 79箇所 R3年度 74箇所 R4年度 80箇所	<p>事業所立入検査計画書の策定</p> <p>(特定施設＝水質汚濁防止法施行令又はダイオキシン類対策特別措置法施行令で定められている排水の水質規制が必要とされる施設で、「1日に最大で50m³以上の排水がある」か「現在の排水水質が、下水排水基準を上回る場合」のいずれかに該当するもの)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事業所立入検査計画書の整備を行い検査計画の策定を行った。 立入 検査の実施 4箇所 特定施設 1箇所 除害施設 3箇所 検査結果 異常なし 1箇所(特定施設) 異常なし 3箇所(除害施設) 	定量的な評価が困難な項目	—	—	A	<p>成果</p> <p>事業所立入計画書の整備を行い検査計画の策定を行った。</p> <p>課題</p> <p>排水の水質を保つために、定期的に施設への立入検査を行う必要がある。</p> <p>今後の方向性</p> <p>今後も継続して立入検査を実施する。</p>
		6 最適整備構想策定(農集排)及び改築更新計画の策定(農集排) (R3～R4)	—	—	令和4年度までに策定						

下水道

【計画期間：平成29年度～令和9年度】

基本方針	具体的施策	具体的な取り組み	最終目標値	R4までの実績率	令和5年度						
					単年度目標	単年度実績	年次目標値	最終目標値に対する実績率①	達成率	評価	コメント欄
豊かな自然環境を守る3/3	イ 水環境の保全 (安定的な放流水水質の確保) (ストックマネジメントの実施) 2/2	7 処理場機械電気設備等の更新 (ストックマネジメント) (R6～R9)	更新率 100%	—	老朽化が進行している農集排川西浄化センター、押野浄化センターの機械・電気設備、処理槽等の劣化調査を実施する。	・川西及び押野地区機能強化基礎調査業務委託を実施した。	定量的な評価が困難な項目	—	—	A	成果 施設老朽化の状態を把握するための調査を実施した。 課題 施設劣化等は年々進行しているため、的確な調査が必要。 今後の方向性 令和8年度改築更新着手に向け事業を進める。
		1 耐震化対策（明科浄化センター耐震診断）	診断実施	—	当該施設は平成7年から8年に実施設計を行い建築された施設である。現在の耐震基準を満たしていない施設を特定する。	・耐震診断の必要性について、当該施設の実設計業務受託業者から聴取。 ・その結果、管理棟、水処理棟（第1系統）の耐震診断が必要であることが判明。	定量的な評価が困難な項目	—	—	B	成果 統廃合を踏まえた耐震診断のタイミングについて検討した。 課題 耐震診断及び耐震化工事に活用できる財源の確保が必要。 今後の方向性 県担当部署と協議し、耐震診断、耐震化工事に活用できる財源を模索する。
		2 耐水化対策（汚水処理施設耐水化工事）	実施率 100%	—	近年の豪雨災害は激甚化、頻発化している。汚水処理施設の浸水防止対策に取り組むため、施設ごとの浸水想定深の確認、過去の浸水深を調査する。	・防災マップにより浸水想定深の確認を行った。 ・処理施設の維持管理を委託している業者から過去の浸水被害状況について聴取した。 ・その結果、ハード及びソフト両面での対策が必要であることが判明した。	定量的な評価が困難な項目	—	—	B	成果 今後の実施設計に向けた方向性を確認した。 課題 ハード対策を複数案抽出し、現状に即した工事が必要となる。 今後の方向性 川西及び押野浄化センターについては、国費を活用し令和8年度から事業着手する予定。
		3 下水道BCP*職員訓練の実施 (H29～R9) *下水道BCP=業務継続計画	年1回	R2年度未実施 R3年度未実施 R4年度実施	上下水道部防災訓練において多様な災害（浸水害、大地震、大雨等）を想定した対応等について確認する。	・上下水道部防災訓練にて大雨による浸水害等を想定した訓練を実施した。 ・今回は市の防災共有システムを活用し、訓練を実施した。	定量的な評価が困難な項目	—	—	A	成果 昨年に引き続き上下水道部防災訓練を実施した。各自、担当業務に対処でき、効果的に訓練が実施できた。 課題 近年頻発する大規模地震に備えた訓練が必要。 今後の方向性 継続して訓練を実施する。
		4 安全管理対策（施設修繕費） (マンホール蓋、路面補修ほか) (R2～R9)	事故件数 0件	R2年度12,945千円 R3年度13,783千円 R4年度18,492千円	下水道施設が起因となる事故を未然に防ぐため、舗装補修等を行う。	・舗装補修等 契約額 15,336,750円 契約件数 22件 ・事故件数 1件	定量的な評価が困難な項目	—	—	B	成果 事故の未然防止に努めていたが、マンホールに起因する物損事故が発生した。 課題 管路施設やその周辺の路面は経年経過による損傷が進行するため、危険箇所を早期発見する必要がある。 今後の方向性 通報や維持管理課、安曇野建設事務所からの情報提供により、危険箇所の早期発見に努め、事故を未然に防止するよう取り組む。
5 非常用発電機の導入 (H29～R6)	—	H29年度2台	災害による長時間停電に備えるため、主要なマンホールポンプ場に自家発電装置の設置を検討する。	・単独公共下水道明科処理区及び農業集落排水生野地区を犀川安曇野流域関連安曇野処理区の計画区域へ編入するため、接続管路実施設計業務にて自家発電装置の必要性について検討した。 ・その結果、マンホールポンプ場が停止した際には、既存管渠を繋げる管路を新たに布設する事により、一時的に明科浄化センター跡施設にて汚水を貯留させ、長期的な停電に備えることとした。	定量的な評価が困難な項目	—	—	B	成果 委託業務にて自家発電機の必要性を検討した。 課題 燃料価格や人件費、資材単価の高騰による工事費の上昇が見込まれるため、財源の確保が課題となる。 今後の方向性 令和8年度の供用開始に向けて、管路工事を進める。		

下水道

【計画期間：平成29年度～令和9年度】

基本方針	具体的施策	具体的な取り組み	最終目標値	R4までの実績率	令和5年度							
					単年度目標	単年度実績	年次目標値	最終目標値に対する実績率①	達成率	評価	コメント欄	
安全で安心な暮らしの実現 2 / 3	ア 防災減災の推進 (施設の耐震耐水対策) (危機管理体制の確立) 2/2	6 緊急通報装置の更新 (ストックマネジメント) (R3)			令和3年度に更新完了							
	イ 長寿命化対策 (計画的な維持管理) (ストックマネジメントの実施) 1/2	1 管渠・MPの適正管理 (委託料) (H29～R9)	—	R2年度 80,482千円 R3年度 78,315千円 R4年度 79,846千円	管渠施設及びマンホールポンプの維持管理を長野県下水道公社に委託する。 (R5～R7の3ヶ年契約)	<ul style="list-style-type: none"> 調査・清掃・修繕 運転操作及び監視 定期巡視点検 マンホール内清掃 ポンプ等の状態確認及びオイル交換 非常通報時の対応 	決算 ; 80,676,021円 内訳 公共 78,778,724円 農集 1,897,297円	定量的な評価が困難な項目	—	—	A	<p>成果</p> <p>管渠施設・マンホールポンプ等の適切な維持管理に取り組んだ。</p> <p>課題</p> <p>下水道課職員の減少及び異動に伴う専門スキルの低下を補うことが必要であるとともに、コスト削減が課題。</p> <p>今後の方向性</p> <p>管渠施設やマンホールポンプを適切に管理するために、一定の知識や経験を備える業者に委託をしていく必要がある。</p>
		2 管渠施設の計画修繕 (管理委託を含む)			上記1に含めて実施中							
		3 ストックマネジメント計画の策定 (R3)			令和2年度までに策定							
		4 法定点検調査の実施 (1回/5年) (腐食環境下箇所の管渠施設)	実施率 100%	—	下水道法施行令第5条の12に規定されている腐食のおそれの大きい箇所の管渠の点検を行う。	1と併せ長野県下水道公社へ業務委託をした。 ・圧送管吐出先や伏越し箇所など腐食のおそれの大きい箇所32箇所の点検を行った。	20%	20%	100%	A	<p>成果</p> <p>計画どおり調査が行えた。</p> <p>課題</p> <p>異常箇所の修繕費を確保する必要がある。</p> <p>今後の方向性</p> <p>継続して管渠の点検・調査を行う。</p>	
		5 計画的な施設の点検・調査 (1回/10年) (主要な管渠のカメラ調査) (H29～R9)	調査率 100%	67.3%	1と併せ長野県下水道公社へ業務委託をする。 ・堀金、三郷地域、豊科の管渠を計画 ・カメラ調査 1.5km/年	1と併せ長野県下水道公社へ業務委託をした。 ・堀金、三郷、豊科地域の点検・調査を実施 ・カメラ調査 1,570m 2 管路巡視点検 71,720m * 10,128m (H29～R4分) +1,570m =11,698m ≒11.7km 11.7km/15km (10年間) ×100=78.0%	70%	78.0%	111%	A	<p>成果</p> <p>計画どおり調査が行えた。 異常箇所の発見、老朽化等の度合いが確認できた。</p> <p>課題</p> <p>異常箇所の修繕費を確保する必要がある。</p> <p>今後の方向性</p> <p>継続して管渠の点検・調査を行う。</p>	
6 管渠の清掃 (1回/10年) (高圧洗浄 11km) (H29～R9) (150箇所計画)	実施率 100%	80.9%	1と併せ長野県下水道公社へ業務委託をする。 ・豊科・三郷・明科地域の管渠の高圧洗浄を計画 ・管渠洗浄 1.1km/年	1と併せ長野県下水道公社へ業務委託をした。 ・豊科・穂高・三郷・明科地域の清掃を実施 ・管渠洗浄 1,500m * 8,896m (H29～R4分) +1,500m =10,396m ≒10.4km 10.4km/11km (10年間) ×100=94.5%	70%	94.5%	135%	A	<p>成果</p> <p>カメラ調査で洗浄が必要と認められた管渠に洗浄を実施した。</p> <p>課題</p> <p>広範囲に管渠整備がされていることから清掃箇所の調査を行うにはコストがかかるため、効率的な計画を立てる必要がある。</p> <p>今後の方向性</p> <p>継続してカメラ調査と並行し管渠の清掃を行う。</p>			

下水道

【計画期間：平成29年度～令和9年度】

基本方針	具体的施策	具体的な取り組み	最終目標値	R4までの実績率	令和5年度						
					単年度目標	単年度実績	年次目標値	最終目標値に対する実績率①	達成率	評価	コメント欄
安全で安心な暮らしの実現 3 / 3	イ 長寿命化対策 (計画的な維持管理) (ストックマネジメントの実施) 2/2	7 管渠の改築更新 (ストックマネジメント) (R 7)	実施率 100%	-	ストックマネジメント計画に基づき、腐食劣化が進行している管路の改築更新工事に向けて実施設計業務を行う。	国費を活用し、実施設計業務を発注した。 ・豊科第3幹線の実施設計業務が完了。 3,839,000円	定量的な評価が困難な項目	-	-	A	成果 前年度に予算を確保したことで年度当初から業務に着手し、11月に完了した。 課題 職員に改築更新に係る経験が無いため、技術力の向上が必要。 今後の方向性 ストックマネジメント計画に基づき事業を進めるとともに、職員の技術力向上を図る。
		8 マンホールポンプ場の設備更新 (R 4～ R 9)	更新数 11箇所	2箇所	ストックマネジメント計画に基づき、マンホールポンプ場2箇所の改築更新を行う。	国費を活用し、計画に基づき工事を発注した。 ・中萱第2マンホールポンプ場、田沢幅下1号マンホールポンプ場の更新が完了。 31,372,000円	2箇所	2箇所	100%	A	成果 前年度に予算を確保したことで年度当初から業務に着手し、11月に完了した。 課題 資材や労務費などの価格は年々上昇しており、工事費が上昇傾向にある。 今後の方向性 ストックマネジメント計画に基づき事業を進めるとともに、職員の技術力向上を図る。
健全で持続可能な事業運営 1 / 2	ア 経営の効率化 (安定した事業運営)	1 経営戦略に基づく事業運営 (H29～ R 9)	-	-	経営戦略に基づき事業を運営する。	概ね計画どおり運営している。	定量的な評価が困難な項目	-	-	A	成果 - 課題 人口減少に伴う汚水量の減少や維持管理費の増大により運営が厳しさを増している。 今後の方向性 事業の効率化について周辺事業者との広域化、共同化の研究会、検討会に参加し、情報収集に努める。
		2 民間活力の活用 (H29～ R 9)	-	-	長野県下水道公社へ処理場、管渠、マンホールポンプ場の総合一括管理を委託する。	長野県下水道公社に委託した。 ・明科地域の5処理場 ・市内約860kmの管渠 ・市内214箇所のマンホールポンプ場等の維持管理	定量的な評価が困難な項目	-	-	A	成果 職員数が減少する中、業務委託により適切な維持管理が行えた。 課題 民間活力を拡大し、下水道事業の効率的な運営を図る。 今後の方向性 下水道課職員の減少や異動がある中で、施設等を適正に管理していくには、一定の経験を備える業者に委託をする必要がある。
		3 処理場統廃合の検討(処理区域の見直し) (H29～ R 2)	令和2年度までに完了								
		4 人材育成、専門技術の承継 (H29～ R 9)	-	R4:2名	・下水道協会や下水道事業団等が主催する研修への参加	・主に下水道製品に関して、その製造過程を検査したり、新製品や新技術に関する研修を受講し、知識、技術の向上に取り組んだ。	定量的な評価が困難な項目	-	-	A	成果 視察や研修により一定の知識を習得することができた。 課題 技術職員が減少する中で、その確保は急務であり、市全体での取り組みが必要。 今後の方向性 引き続き研修やOJTにより職員の技術力向上に努める。
		5 下水道使用料の検証	令和6年度までに検証予定								

下水道

【計画期間：平成29年度～令和9年度】

基本方針	具体的施策	具体的な取り組み	最終目標値	R4までの実績率	令和5年度						
					単年度目標	単年度実績	年次目標値	最終目標値に対する実績率①	達成率	評価	コメント欄
健全で持続可能な事業運営2/2	イ 広報事業の充実 (広報手段の拡充)	1 市民への使用方法PR（広報誌・HP・イベント等への参加等） (H29～R9)	年2回	R2年度開催なし R3年度開催なし R4年度1回開催	イベント等において下水道の適正利用を促し、水環境の保全向上を図る。	・「安曇野市環境フェア」及び、「下水道ふれあいデー」に出展し、下水道についてアピールした。	2回	2回	100%	A	成果 住民の下水道に関する意識の高揚を図るため、安曇野市環境フェアや下水道ふれあいデーに出展しアピールに取り組んだ。 課題 下水道に関する市民の認知度・関心度合いの把握。 今後の方向性 下水道への理解と関心を深めてもらうため、引き続きイベントの運営参加を継続する。
		2 ホームページ等の充実と強化 (R3～R9)	-	-	効果的・効率的な広報の展開方法を検討する。	他自治体のホームページを参考に検討を進めている。	定量的な評価が困難な項目	-	-	B	成果 他自治体のホームページを参考に検討を進めた。 課題 効果的・効率的な広報の展開を図る必要がある。 今後の方向性 引き続き取り組みを進める。
		3 マンホールカードの配布事業等（下水道事業の見える化） (R3～R9)	-	R3年度2,952枚 R4年度2,029枚	・マンホールカードの配布により下水道への関心・理解を得る。	・マンホールカードを作成し、市民及び全国のマンホールカードコレクターに配布し、下水道への関心を集めた。 ・R5年度：2,403枚配布	定量的な評価が困難な項目	-	-	A	成果 マンホールカードの配布を行い下水道への関心を持っていただいた。 課題 下水道に関する市民の認知度・関心度合いの把握。 今後の方向性 引き続き取り組みを継続する。